

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

<p>学校名</p>	<p>唐津市立成和小学校</p>																																														
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>・全ての評価項目で「おおむね達成」または「十分達成」の評価であった。校内研究の「かく」ことの指導や貸出冊数1人100冊、校内特別支援委員会の体制づくり等で特に成果を上げた。</p> <p>・「学力向上」については、校内研究を中心に「楽しくかく」段階から2年目の「わかる段階」へ移行し、思考力を育成する指導方法の工夫を進めていく。</p> <p>・「不登校対策」については、引き続き「不登校を生まない学校づくり・学級づくり」に取り組んでいく。保護者とのつながりを深め、組織的な対応を行っていく。外部機関との連携も充実させる。</p> <p>・「キャリア教育」については、児童が夢や目標を持つことができるよう学校行事、体験活動等の充実を図り、主体的に取り組む児童の育成を目指す。</p> <p>・「安全教育」については、地域と連携を図り、安全教育の充実を図る。交通安全指導や不審者対応、児童引き渡し訓練等を計画的に行い、安全に関する資質・能力を育成していく。</p>																																														
<p>2 学校教育目標</p>	<p>「ハート」「パワー」「チャレンジ」～わたしらしく あなたらしく～ あたたかかく、力強く、自分らしく、目標にチャレンジする成和っ子の育成</p>																																														
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>①思考力・表現力の向上目指した学びの充実 ②不登校・いじめ問題への早期・組織的な対応 ③特別支援教育の推進と校内支援体制の充実 ④組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減</p>																																														
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>	<p>(1)共通評価項目</p>																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="2">重点取組</th> <th rowspan="2">具体的取組</th> <th rowspan="2">主な担当者</th> </tr> <tr> <th>取組内容</th> <th>成果指標 (数値目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●学力の向上</td> <td>○校内研で進める「思考力を育成する指導法の工夫」の授業実践</td> <td>○「かくこと」に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上</td> <td>・自分の考えに加え、友達の良い意見・考えを取り入れて、さらにより考えるとなるような授業を実践する。 ・貸し出し冊数1人100冊達成者の増加を目指し、図書館教育に力を入れる。</td> <td>・学力向上コーディネーター ・研究主任</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●心の教育</td> <td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td> <td>○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上</td> <td>・ふれあい道徳や人権集会、道徳に関するアンケートを実施する。 ・職員間による教材や資料の共有化を図る。 ・保護者や地域の方と連携した体験活動を実施する。</td> <td>・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者</td> </tr> <tr> <td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td> <td>○「いじめに関して、情報の共有化を図り、迅速で組織的な対応ができています」と回答した教員90%以上</td> <td>・未然防止のため、各クラスにおいて、支持的風土のあるあたたかい学級づくりを進める。 ・ケース会議を開き、情報の共有化を図り、最善策をとる。 ・心のアンケートを実施する。(年3、4回) ・夏季休業中に研修会を開き、いじめの定義や覚知・認知の共通理解を図る。</td> <td>・生活部 (教頭)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">●健康・体づくり</td> <td>①「運動習慣の改善や定着化」</td> <td>①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上</td> <td>・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。 ・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。</td> <td>・保体部</td> </tr> <tr> <td>②「望ましい生活習慣の形成」</td> <td>②毎日朝ごはんの摂取率90%以上、遅刻なし80%以上、ハンカチ・ティッシュの忘れなし90%以上</td> <td>・保健だよりで家庭と連携を図りながら、朝ごはんへの啓発を図る。 ・毎日の健康観察・衛生検査とともに指導を行う。 ・保健の授業で指導を行う。</td> <td>・保体部</td> </tr> <tr> <td>③「安全に関する資質・能力の育成」</td> <td>○児童の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする。</td> <td>・年度当初、職員と地域の方と一緒に校区内巡回を行い、通学路や危険箇所の確認を行う。 ・自転車の乗り方、道路の渡り方を中心に交通安全指導を行う。 ・外部講師を招いて、1年生防犯教室を実施する。 ・防犯意識を高める「全校安全集会」を実施する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td> <td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td> <td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・繁忙期以外の月を在校時間縮減月間として取り組む。(7月、8月、10月、12月、1月) ・上記月間の時間外在校時間45時間を超えない職員の割合85%以上</td> <td>・職員の役割分担を明確にし、学校行事の準備等協力体制を築いて業務の効率化を図る。 ・定時退勤日を設定する。(金曜日) ・目標退勤時刻を行事黒板に提示する。 ・時間外在校時間45時間未満の達成状況を学期末に職員に周知する。</td> <td>・教頭</td> </tr> <tr> <td>●特別支援教育の充実</td> <td>●特別支援教育の充実</td> <td>●月に1回程度、特別支援委員会を開き、教員間で情報共有を行い、児童の状況をつかみ、特別支援の充実に努める。 ●特別支援教育に関して保護者への啓発を図る。</td> <td>・児童が安定した学校生活を送ることができるように、担任や生活支援員との情報共有を密にし、児童や保護者の願いに寄り添った支援を行う。 ・学校説明会や教育講演会、学校だよりを通して保護者への啓発を行う。</td> <td>・特支援教育コーディネーター</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	重点取組		具体的取組	主な担当者	取組内容	成果指標 (数値目標)	●学力の向上	○校内研で進める「思考力を育成する指導法の工夫」の授業実践	○「かくこと」に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・自分の考えに加え、友達の良い意見・考えを取り入れて、さらにより考えるとなるような授業を実践する。 ・貸し出し冊数1人100冊達成者の増加を目指し、図書館教育に力を入れる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・ふれあい道徳や人権集会、道徳に関するアンケートを実施する。 ・職員間による教材や資料の共有化を図る。 ・保護者や地域の方と連携した体験活動を実施する。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめに関して、情報の共有化を図り、迅速で組織的な対応ができています」と回答した教員90%以上	・未然防止のため、各クラスにおいて、支持的風土のあるあたたかい学級づくりを進める。 ・ケース会議を開き、情報の共有化を図り、最善策をとる。 ・心のアンケートを実施する。(年3、4回) ・夏季休業中に研修会を開き、いじめの定義や覚知・認知の共通理解を図る。	・生活部 (教頭)	●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上	・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。 ・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。	・保体部	②「望ましい生活習慣の形成」	②毎日朝ごはんの摂取率90%以上、遅刻なし80%以上、ハンカチ・ティッシュの忘れなし90%以上	・保健だよりで家庭と連携を図りながら、朝ごはんへの啓発を図る。 ・毎日の健康観察・衛生検査とともに指導を行う。 ・保健の授業で指導を行う。	・保体部	③「安全に関する資質・能力の育成」	○児童の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする。	・年度当初、職員と地域の方と一緒に校区内巡回を行い、通学路や危険箇所の確認を行う。 ・自転車の乗り方、道路の渡り方を中心に交通安全指導を行う。 ・外部講師を招いて、1年生防犯教室を実施する。 ・防犯意識を高める「全校安全集会」を実施する。		●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・繁忙期以外の月を在校時間縮減月間として取り組む。(7月、8月、10月、12月、1月) ・上記月間の時間外在校時間45時間を超えない職員の割合85%以上	・職員の役割分担を明確にし、学校行事の準備等協力体制を築いて業務の効率化を図る。 ・定時退勤日を設定する。(金曜日) ・目標退勤時刻を行事黒板に提示する。 ・時間外在校時間45時間未満の達成状況を学期末に職員に周知する。	・教頭	●特別支援教育の充実	●特別支援教育の充実	●月に1回程度、特別支援委員会を開き、教員間で情報共有を行い、児童の状況をつかみ、特別支援の充実に努める。 ●特別支援教育に関して保護者への啓発を図る。	・児童が安定した学校生活を送ることができるように、担任や生活支援員との情報共有を密にし、児童や保護者の願いに寄り添った支援を行う。 ・学校説明会や教育講演会、学校だよりを通して保護者への啓発を行う。	・特支援教育コーディネーター	<p>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</p>		
評価項目		重点取組				具体的取組	主な担当者																																								
	取組内容	成果指標 (数値目標)																																													
●学力の向上	○校内研で進める「思考力を育成する指導法の工夫」の授業実践	○「かくこと」に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・自分の考えに加え、友達の良い意見・考えを取り入れて、さらにより考えるとなるような授業を実践する。 ・貸し出し冊数1人100冊達成者の増加を目指し、図書館教育に力を入れる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任																																											
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・ふれあい道徳や人権集会、道徳に関するアンケートを実施する。 ・職員間による教材や資料の共有化を図る。 ・保護者や地域の方と連携した体験活動を実施する。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者																																											
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめに関して、情報の共有化を図り、迅速で組織的な対応ができています」と回答した教員90%以上	・未然防止のため、各クラスにおいて、支持的風土のあるあたたかい学級づくりを進める。 ・ケース会議を開き、情報の共有化を図り、最善策をとる。 ・心のアンケートを実施する。(年3、4回) ・夏季休業中に研修会を開き、いじめの定義や覚知・認知の共通理解を図る。	・生活部 (教頭)																																											
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上	・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。 ・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。	・保体部																																											
	②「望ましい生活習慣の形成」	②毎日朝ごはんの摂取率90%以上、遅刻なし80%以上、ハンカチ・ティッシュの忘れなし90%以上	・保健だよりで家庭と連携を図りながら、朝ごはんへの啓発を図る。 ・毎日の健康観察・衛生検査とともに指導を行う。 ・保健の授業で指導を行う。	・保体部																																											
	③「安全に関する資質・能力の育成」	○児童の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする。	・年度当初、職員と地域の方と一緒に校区内巡回を行い、通学路や危険箇所の確認を行う。 ・自転車の乗り方、道路の渡り方を中心に交通安全指導を行う。 ・外部講師を招いて、1年生防犯教室を実施する。 ・防犯意識を高める「全校安全集会」を実施する。																																												
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・繁忙期以外の月を在校時間縮減月間として取り組む。(7月、8月、10月、12月、1月) ・上記月間の時間外在校時間45時間を超えない職員の割合85%以上	・職員の役割分担を明確にし、学校行事の準備等協力体制を築いて業務の効率化を図る。 ・定時退勤日を設定する。(金曜日) ・目標退勤時刻を行事黒板に提示する。 ・時間外在校時間45時間未満の達成状況を学期末に職員に周知する。	・教頭																																											
●特別支援教育の充実	●特別支援教育の充実	●月に1回程度、特別支援委員会を開き、教員間で情報共有を行い、児童の状況をつかみ、特別支援の充実に努める。 ●特別支援教育に関して保護者への啓発を図る。	・児童が安定した学校生活を送ることができるように、担任や生活支援員との情報共有を密にし、児童や保護者の願いに寄り添った支援を行う。 ・学校説明会や教育講演会、学校だよりを通して保護者への啓発を行う。	・特支援教育コーディネーター																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="2">重点取組</th> <th rowspan="2">具体的取組</th> <th rowspan="2">主な担当者</th> </tr> <tr> <th>重点取組内容</th> <th>成果指標 (数値目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○不登校対策・支援</td> <td>○登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応の充実</td> <td>○「登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応ができています」と回答した教員90%以上</td> <td>・管理職や教育相談主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、担任等でケース会議を開き、組織的な対応を行う。 ・SCやSSW、青少年支援センター等と連携を図り、児童や保護者に寄り添った対応を行う。 ・学校説明会、教育講演会、学校だよりを通じて、保護者への啓発を行う。</td> <td>・教頭</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	重点取組		具体的取組	主な担当者	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	○不登校対策・支援	○登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応の充実	○「登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応ができています」と回答した教員90%以上	・管理職や教育相談主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、担任等でケース会議を開き、組織的な対応を行う。 ・SCやSSW、青少年支援センター等と連携を図り、児童や保護者に寄り添った対応を行う。 ・学校説明会、教育講演会、学校だよりを通じて、保護者への啓発を行う。	・教頭	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>																																		
評価項目		重点取組				具体的取組	主な担当者																																								
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)																																													
○不登校対策・支援	○登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応の充実	○「登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応ができています」と回答した教員90%以上	・管理職や教育相談主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、担任等でケース会議を開き、組織的な対応を行う。 ・SCやSSW、青少年支援センター等と連携を図り、児童や保護者に寄り添った対応を行う。 ・学校説明会、教育講演会、学校だよりを通じて、保護者への啓発を行う。	・教頭																																											
<p>5 総合評価・次年度への展望</p>	<p>・ ・ ・</p>																																														